

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/01/04

欧州債務問題と堅調な米景気との板挟みか

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	来月のRBA理事会をにらみながら 予想レンジ: 76.60 ~ 82.20 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	RBNZは金利よりも声明に注目 予想レンジ: 57.20 ~ 63.00 円	4-5
<u>ランド/円</u>	➡	決定打に欠け方向感に乏しい展開か 予想レンジ: 8.90 ~ 10.00 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



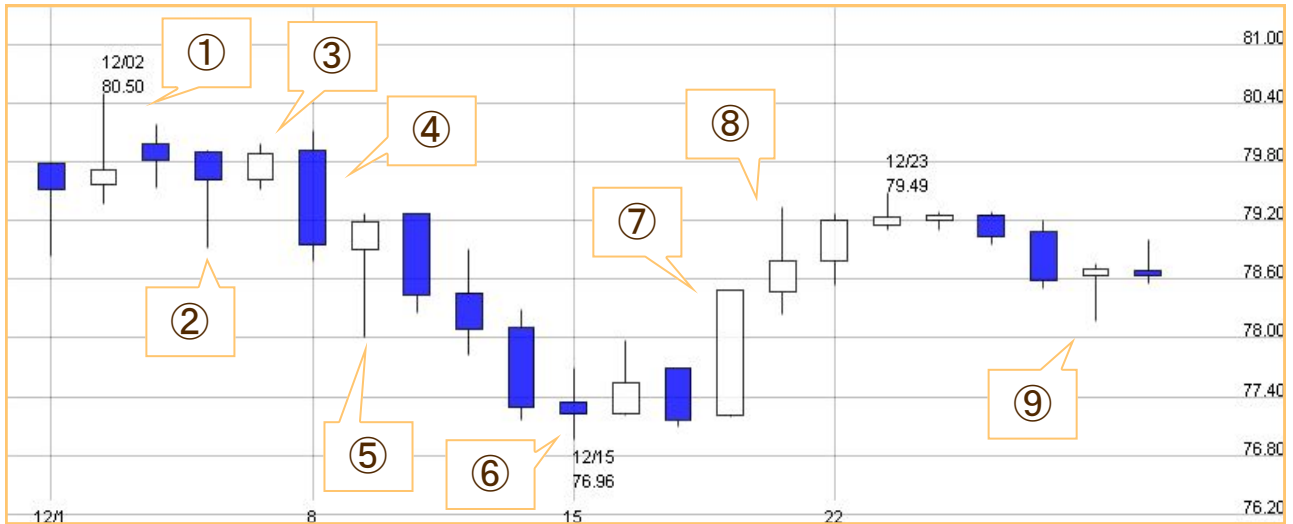
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	79.78円	80.50円	76.96円	78.64円



- ① 2日、米11月失業率が約2年6カ月ぶりの水準となる8.6%に低下した事を受け、リスクを積極的に取る機運が高まると、豪ドル/円は一時80.50円まで上昇した。しかし、直前には20万人増に達すると噂された非農業部門雇用者数は12.0万人増と予想(12.5万人増)を下回った事を受け、時間外のNYダウ平均先物の伸び悩むと、豪ドル/円は反落した。
- ② 6日、豪準備銀行(RBA)は前月に続き政策金利の0.25%引き下げを決定し、年4.25%とした。同時に発表された声明文で「政策金利を小幅引き下げる余地がある」とした事を受けて、追加利下げの思惑から豪ドル売りが優勢となった。
- ③ 7日、豪第3四半期国内総生産(GDP)が前期比+1.0%、前年比+2.5%と予想(+0.8%、+1.9%)よりも強い結果となった事を受け、豪ドル/円は30銭近く急騰して79.88円まで上昇した。
- ④ 8日、豪11月雇用統計で、失業率が5.3%(予想:5.2%)に悪化し、新規雇用者数が予想(1.00万人増)に反して0.63万人減となると、豪ドル/円は約40銭下落して79.46円まで下げた。
- ⑤ 9日、前日終盤に欧州安定メカニズム(ESM)に対する銀行免許付与などの合意を盛り込んだEU首脳会議の声明草案が伝わっていたが、EU首脳から「EU27カ国での条約改正を断念」「ESMに銀行免許を付与しないことで合意」と伝えられると、欧州債務問題の進展期待が後退。アジア株が軟調に推移した事も重なり、豪ドル/円は78.00円まで下落した。
- ⑥ 15日、仏格下げが噂される中、伊国債入札の不調を手掛かりに欧米株が下落した影響を引き継ぎぐ形でアジア株が全面安となると、豪ドル/円は一時76.96円まで下落した。
- ⑦ 20日、豪準備銀行(RBA)議事録で「欧州がもたらす下方リスクの高まりを理由に小幅な利下げを決定」とした一方で「一部の要因は利下げの強い必要性を示唆しなかった」とした事を受けて追加利下げ観測が後退すると、豪ドル/円は小幅に値を上げた。その後、スペインの短期債入札で落札利回りが大幅に低下した事などを背景に欧州株が上昇した他、米11月住宅着工件数が68.5万件と予想(63.5万件)より強い内容となり、NYダウ平均が引けにかけて330ドル高となると、豪ドル/円は78.49円まで上昇した。
- ⑧ 21日、欧州中銀(ECB)の3年物オペの入札結果が発表され、直後の市場では銀行の資金繰りが改善するとの期待から欧州株が上昇。これを受けて豪ドル/円は一時79.34円まで値を上げた。
- ⑨ 29日、ユーロ/円相場にて下値模索の動きが強まり、一時100.05円まで下落。豪ドル/円はこの下げに連れる形で78.18円まで値を下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

12月の豪ドル/円相場は76.96円～80.50円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.4%の下落(豪ドル安・円高)となった。月初は米国の雇用状況の改善期待を手掛かりに豪ドル高・円安となる場面が見られたものの、その後の市場の関心は欧州債務問題に集まり、同問題に左右される展開となった。

1月の豪ドル/円相場は先月に続き、欧州債務問題がポイントとなりそうだ。依然として問題解決の糸口が見つかからない中、独仏を始めとする欧州主要国の格下げ懸念を始め、イタリアを始めとする欧州主要国の国債利回りの上昇、EU財務相会議をはじめとする会合での加盟国間での足並みの乱れなど、ユーロ売りの材料が数多い中ではリスク回避の動きが先行しやすく、豪ドル/円は上値の重い展開が予想される。

豪国内を見ると、今月は金融政策決定こそないものの、12月雇用統計や第4四半期消費者物価指数の発表が予定されている。昨年、豪準備銀行(RBA)は欧州経済の減速リスクを理由に2回連続で利下げを行っているが、欧州経済の悪影響が豪州経済にも波及するようだと、次回RBA理事会での追加利下げ観測が浮上して豪ドル売り圧力が強まることも考えられる。

ただし、3日に発表された中国12月非製造業PMIや米12月ISM製造業景況指数がいずれも予想を上回った事で、世界景気の後退懸念が和らぐ場面が見られた他、イラン情勢の緊迫化が原油供給のひっ迫懸念から原油相場が上昇した事を背景に、豪ドル/円は堅調に推移した。市場の関心が欧州債務問題から米中を始めとする世界経済の景気後退懸念の緩和に集まる場合、リスク回避の動きが和らいで豪ドルが堅調に推移するシナリオもありえる。米中の経済指標にも注目しておきたい。(川畑)

(予想レンジ: 76.60～82.20円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

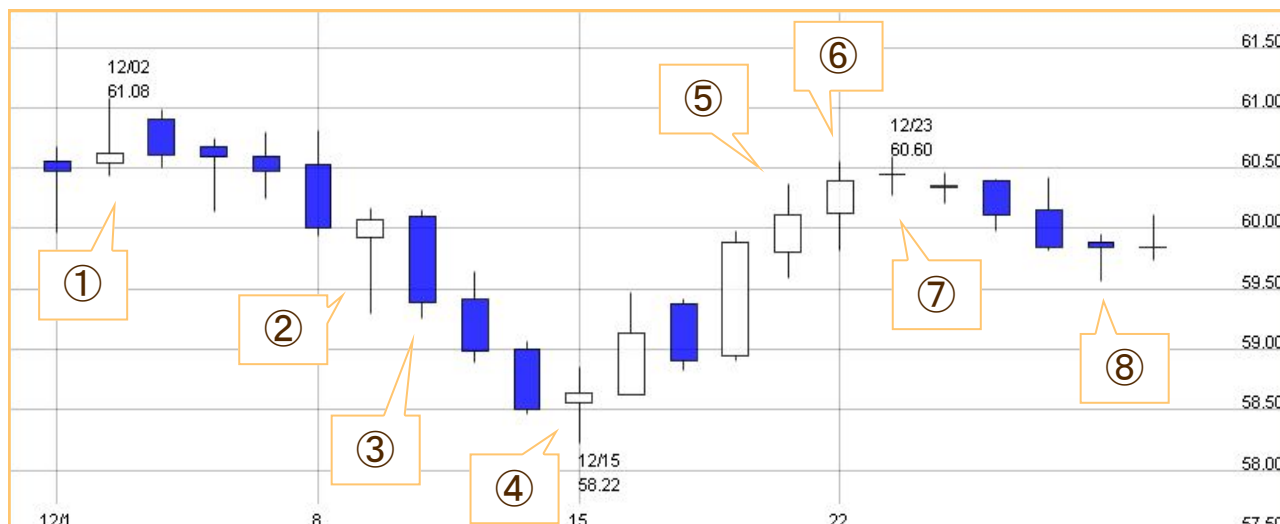
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/3(火)	12月米ISM製造業景況指数	1/17(火)	1月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
1/5(木)	11月豪貿易収支	1/19(木)	11月豪雇用統計
	12月ADP全国雇用者数	1/20(金)	第4四半期豪輸出入物価指数
	12月米ISM非製造業景況指数	1/23(月)	第4四半期豪生産者物価指数
1/6(金)	12月米雇用統計		ユーロ圏財務相会議
1/9(月)	11月豪小売売上高	1/24(火)	日銀金融政策決定会合(23日～)
	独仏首脳会談		EU財務相理事会
1/10(火)	10月豪住宅建設許可件数		米FOMC政策金利発表
1/12(木)	ECB政策金利発表	1/25(水)	第4四半期豪消費者物価指数
	12月米小売売上高	1/27(金)	第4四半期米GDP・速報値
1/9-13	12月中国消費者物価指数	1/30(月)	EU首脳会合
1/13-20	第4四半期中国GDP	1/31(火)	1月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	60.56円	61.08円	58.22円	59.85円



- ① 2日、米11月失業率が約2年6か月ぶりの水準となる8.6%に低下した事を受け、リスクを積極的に取る機運が高まると、NZドル/円は一時61.08円まで上昇した。しかし、非農業部門雇用者数が予想を下回った事を受け、時間外のNYダウ平均先物が伸び悩むと、NZドル/円は反落した。
- ② 8日早朝、NZ準備銀行(RBNZ)は政策金利の2.50%据え置きを発表。その際の声明では前回と比べ、「国内の圧力は将来の利上げを必要とする」等の文言が無かったことなどを理由に、NZドル/円は小幅に下落。しかし、ボラードRBNZ総裁が「2012年半ば頃に緩やかな金利上昇となる可能性」と発言した事や、引けにかけてNYダウ平均が上昇した事を背景に、NZドル/円は反発した。
- ③ 9日、前日終盤に欧州安定メカニズム(ESM)に対する銀行免許付与などの合意を盛り込んだEU首脳会議の声明草案が伝わっていたが、EU首脳から「EU27カ国での条約改正を断念」「ESMに銀行免許を付与しないことで合意」と伝えられると、欧州債務問題の進展期待が後退。アジア株が軟調に推移した事も重なり、NZドル/円は59.30円まで下げた。
- ④ 15日、仏格下げが噂される中、伊国債入札の不調を手掛かりに欧米株が下落した影響を引き継ぎぐ形でアジア株が全面安となると、NZドル/円は一時58.22円まで下落した。
- ⑤ 21日、欧州中銀(ECB)の3年物オペの入札結果が発表され、直後の市場では銀行の資金繰りが改善するとの期待から欧州株が上昇。これを受けてNZドル/円は一時60.37円まで上昇した。
- ⑥ 22日早朝に発表されたNZ第3四半期国内総生産(GDP)は前期比+0.8%、前年比+1.9%(予想:+0.6%、+2.2%)と強弱まちまちの結果となったため、NZドル/円相場の反応は限定的であった。
- ⑦ 23日、東京市場が休場の中、時間外のNYダウ平均先物の他、韓国などのアジア株が堅調に推移した事を背景に、NZドル/円は一時60.60円まで上昇した。しかしその直後、日本時間午前10時前、NZクライストチャーチでのM5.8の地震発生報道を受け、NZドル/円は60.36円まで急落する場面が見られた。
- ⑧ 29日、前日の伊短期国債入札が堅調な需要を集めたにもかかわらず、同国10年債利回りが6.9%台で高止まりする中、この日伊で行われる10年債入札に対する不安からユーロが売られた。ユーロ/円の下げに連れる形で、NZドル/円は59.56円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

12月のNZドル/円相場は58.22円～61.08円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.1%の下落(NZドル安・円高)となった。月初は米国の雇用状況の改善期待を手掛かりにNZドル高・円安となる場面が見られたものの、その後の市場の関心は欧州債務問題に集まり、同問題に左右される展開となった。

1月のNZドル/円は先月に続き、欧州債務問題がポイントとなろう。依然として問題解決の糸口が見つからない中、独仏を始めとする欧州主要国の格下げ懸念を始め、イタリアを始めとする欧州主要国の国債利回りの上昇、EU財務相会議をはじめとする会合での加盟国間での足並みの乱れなど、ユーロ売りの材料が数多い中では、リスク回避の動きが先行しやすく、NZドル/円は上値の重い展開となりそうだ。

NZ国内を見ると、今月は金融政策発表(25日)が予定されている。前回(12月)は声明文の中に「国内の圧力は将来の利上げを必要とする」等の文言が無かった事を理由に、NZの利上げ観測の後退が想起されてNZドルは売られるも、ボラードRBNZ総裁の「2012年半ば頃に緩やかな金利上昇となる可能性」との発言を手掛かりにNZドルが反発した。昨年末時点での、RBNZの利上げ開始時期についてのエコノミスト予想によると、それまでは今年6月の利上げ予想が多かったものの、今年9月へと先送りされるとの見方が増えている事も、NZドルにとって重石となりそうだ。声明を受けて年内は金利を据え置くとの見方が強まるようだと、NZドル売りが強まる事も予想される。

ただし、3日には欧米株の上昇を背景に、NZドル/円は値を上げる場面が見られた。市場の関心が欧州債務問題から米国や中国を始めとする世界経済の景気後退懸念の緩和に集まる場合、リスク回避の動きが和らいでNZドル/円は堅調に推移するシナリオもありえる。米中の経済指標にも注目しておきたい。

(川畑)

(予想レンジ:57.20～63.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

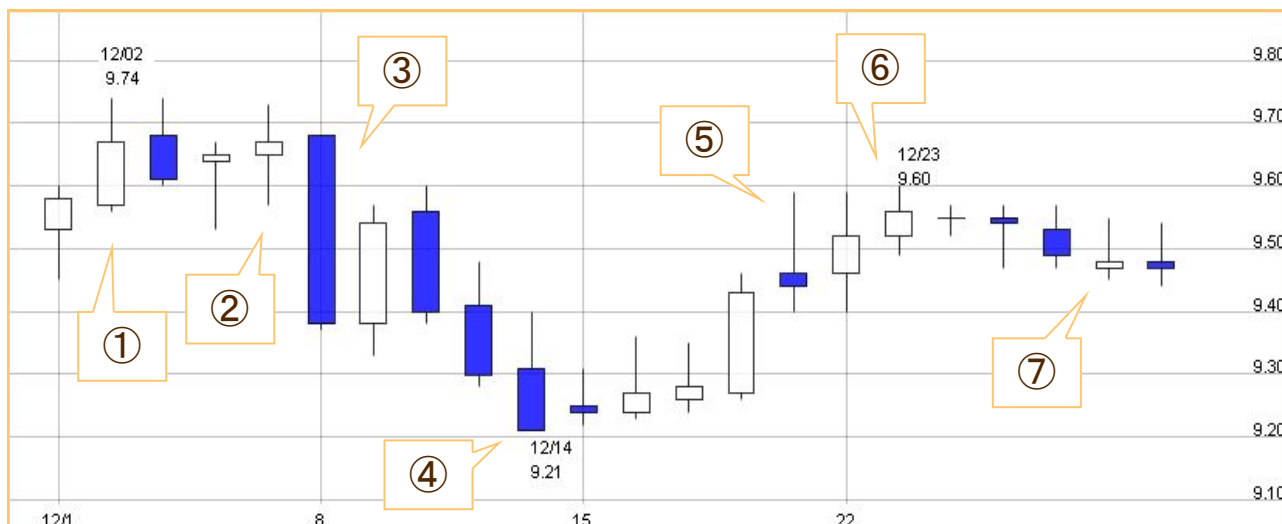
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/3(火)	12月米ISM製造業景況指数	1/17(火)	1月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
1/5(木)	12月米ADP全国雇用者数	1/18(水)	第4四半期NZ消費者物価指数
	12月米ISM非製造業景況指数	1/23(月)	ユーロ圏財務相会議
1/6(金)	12月米雇用統計	1/24(火)	日銀金融政策決定会合(23日～)
1/9-13	12月中国消費者物価指数	1/25(水)	米FOMC政策金利発表
1/9(月)	11月NZ貿易収支		RBNZオフィシャル・キャッシュレート
	11月NZ住宅建設許可	1/26(木)	12月NZ貿易収支
	独仏首脳会談	1/27(金)	第4四半期米GDP・速報値
1/12(木)	ECB政策金利発表	1/30(月)	12月NZ住宅建設許可
	12月米小売売上高		EU首脳会合
1/13-20	第4四半期中国GDP	1/31(火)	1月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.53円	9.74円	9.21円	9.47円



①

2日、米11月失業率が約2年6か月ぶりの水準となる8.6%に低下した事を受け、リスクを積極的に取る機運が高まると、ランド/円は一時9.74円まで上昇した。しかし、直前には20万人増に達すると噂された非農業部門雇用者数は12.0万人増と予想(12.5万人増)を下回った事を受け、時間外のNYダウ平均先物の伸び悩むと、ランド/円は反落した。

②

7日、南ア10月実質小売売上高は前年比+7.4%と予想(同+7.5%)をわずかに下回ったものの、市場の反応は薄かった。

③

8日、ドラギECB総裁がECBによる国債購入に否定的な見解を述べたため、欧州債務危機の対応に対する不透明感が漂い、欧米株が下落。ランド/円は株安を背景に下落した。なお同日に発表された南ア第3四半期財政収支は1146億ランド、対国内総生産(GDP)比で3.8%の赤字となった。事前予想(1109億ランド、対GDP比で3.7%の赤字)よりも赤字幅が拡大したものの、市場の反応は薄かった。

④

14日、仏の格下げが噂される中、伊国債入札の不調を受けて欧米株が下落した影響を背景に、ランド/円は引け間際に一時9.21円の安値を付けた。なお同日に発表された南ア11月消費者物価指数は前年比+6.1%と予想(同+6.2%)より弱い内容となるも、市場の反応は薄かった。

⑤

21日、欧州中銀(ECB)の3年物オペの入札結果が発表され、直後の市場では銀行の資金繰りが改善するとの期待から欧州株が上昇。これを受けてランド/円は一時9.59円まで上昇した。

⑥

23日、東京市場が休場の中、時間外のNYダウ平均先物の他、韓国などのアジア株が堅調に推移した事を背景に、ランド/円は一時9.60円まで上昇した。

⑦

29日、前日の伊短期国債入札が堅調な需要を集めたにもかかわらず、同国10年債利回りが6.9%台で高止まりする中、この日伊で行われる10年債入札に対する不安からユーロが売られた。ユーロ/円の下げに連れる形で、ランド/円は9.45円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

12月のランド/円相場は9.21円～9.74円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.4%の下落(ランド安・円高)となった。月初は米国の雇用状況の改善期待を手掛かりにランド高・円安となる場面が見られたものの、その後の市場の関心は欧州債務問題に集まり、同問題に左右される相場展開となった。

1月のランド/円は決定打に欠け方向感に乏しい展開となる可能性がある。まず、欧州債務問題について、依然として解決の糸口が見つかっておらず、ユーロ売りの材料が数多い中ではリスク回避の動きが先行しやすい。ただ、昨年12月30日にユーロ/円は100円の台を割ったものの、ランド/円の下げは限定的であったことから、今後は欧州債務危機が一段と深刻化しない限り、ランド/円相場に与える影響は徐々に小さくなってゆく可能性がある。一方、今月3日には欧米株の上昇を背景に豪ドル/円やNZドル/円は上昇したが、ランド/円はほぼ無反応となっている。背景には、前回(11月)の南ア準備銀行(SARB)の金融政策発表を受け、欧州経済の下振れが自国内に一段と波及する場合、SARBが利下げに踏み切るとの観測が浮上した事がある模様。

そのSARBでは今月、金融政策発表が予定されている。インフレ率が2カ月連続でSARBの目標レンジ(年3-6%)を上回る中においては、欧州債務不安が南ア経済の足を引っ張るような状況にならない限り、SARBが今回の会合で利下げに踏み切る可能性は低いと見られる。とはいえ、市場では利下げ観測がくすぶっていることから、声明を始めSARBサイドの要人発言には注意しておきたい。(川畑)

(予想レンジ:8.90～10.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/3(火)	12月米ISM製造業景況指数	1/18(水)	12月南ア消費者物価指数
1/5(木)	12月ADP全国雇用者数	1/19(木)	南ア準備銀行金融政策発表
	12月米ISM非製造業景況指数	1/23(月)	ユーロ圏財務相会議
1/6(金)	12月米雇用統計	1/24(火)	日銀金融政策決定会合(23日～発表)
1/9-13	12月中国消費者物価指数		EU財務相理事会
1/9(月)	独仏首脳会談		米FOMC政策金利発表
1/12(木)	ECB政策金利発表	1/26(木)	12月南ア生産者物価指数
	12月米小売売上高	1/27(金)	第4四半期米GDP・速報値
1/13-20	第4四半期中国GDP	1/30(月)	EU首脳会合
1/17(火)	1月米ニューヨーク連銀製造業景気指数	1/31(火)	12月南ア貿易収支
1/18(水)	11月南ア実質小売売上高		1月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。